

授業科目名 <英訳>	中国哲学史(演習) History of Chinese Philosophy (Seminars)			担当者氏名	人文科学研究所 准教授 古勝 隆一				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	月3	授業形態	演習
題目	儒家經典注釈研究								
【授業の概要・目的】									
<p>中国南朝時代（4-6世紀）の儒教經典注釈を代表する、皇侃（488-545）『論語義疏』を精読する。本年度は、特にそのうちの郷党篇と八&#20350;篇とを読む。著者の皇侃は、『礼記』の注釈も書いた礼の大家であり、郷党篇・八&#20350;篇の義疏を通じ、皇侃の礼学を理解することが、まず第一の目標である。また、『論語義疏』の文体はやや難解なものであり、これを読みこなす読解力を養うことが、第二の目標である。さらに、『論語義疏』には、本文批判上の問題が含まれているので、校勘学の知識を要する。本書を読むことを通じて校勘学を実践をすること、これが第三の目標である。そして、『論語義疏』の内容をこなれた日本語として訳出すること、これが第四の目標である。以上、四点を目標に掲げ、同書を読み進めたい。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>第1回の授業は、ガイダンスとし、資料の紹介、工具書の使い方、読解の具体的な進め方について紹介する。</p> <p>第2回以降は、学生諸君の分担により、『論語義疏』郷党篇・八&#20350;篇の読解を行う。第2-15回にて郷党篇を読了し、第16-30回にて八&#20350;篇を読了することを目指す。</p> <p>『論語義疏』の文章は読みやすくなく、しかも、『論語』全篇の中では難解な郷党・八&#20350;の両章を選んで読むため、受講者全員による事前の準備が必要である。あわせて、礼についての知識の習得も目指している。</p> <p>本年度は、単に『論語義疏』の内容理解を目指すだけでなく、同書の内容をこなれた日本語に訳出することを目標にしている。受講者の積極的な参加を期待する。</p>									
【履修要件】									
概説書程度の現代中国語を読解できること。									
【成績評価の方法・基準】									
<p>平常点による。平常点は出席状況、授業の予習、および授業内での発言を重視する。</p> <p>なお、読書経験・知識の乏しい受講者に対しては、到達点の高さを評価するのではなく、成長の度合いに応じた評価をする。</p>									
【教科書】									
<p>授業中に指示する</p> <p>必要なテキストはPDFにて配布する。</p>									
【参考書等】									
<p>（参考書）</p> <p>毎回、以下に指定する工具書のうち、いずれかを携帯することを求める。</p> <p>『新華字典』『古代漢語詞典』『辞源（修訂本）』（いずれも商務印書館）、もしくは『王力古漢語字典』（中華書局）。</p>									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									